

(4) 実践事例Ⅰ【造形的な特徴についての気付きから、イメージを膨らませ「思い」を表現する】

① 題材について

＜題材名＞ 不思議な世界をつくろう ～世界に一つの模様紙を使って～

第4学年 A表現（2）B鑑賞（1）

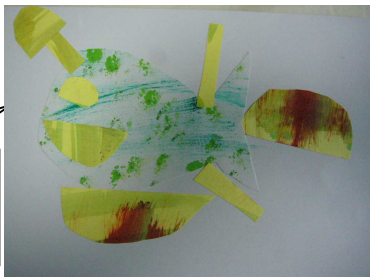
＜題材の目標＞ 絵の具でいろいろな表し方を試しながらつくった紙を使い、形や色、組合せを考えながら工夫して絵に表す。

＜学習内容と活動＞

絵の具でいろいろな表し方を試す活動（表現材料体験）を通して、偶発的にできる形を自分なりの見方で捉えさせました。また、模様の見立て活動（作品の相互鑑賞）で共有した見方・感じ方を基に、模様の形を生かし、「不思議な〇〇」をコラージュで表現させました。表す過程では、共同製作を取り入れました。友達と関わり合いをもたせることで、互いの表現の面白さに気付かせたり、表現の良さを取り入れたりしながら、自分のイメージを追求することができるように工夫しました。

② 題材の実際

学習過程	時間	主な学習活動	イメージ形成の手立て（・） 言語活動指導上の留意点（◆） 造形的な見方・考え方	題材の評価規準
「思い」を膨らませる	1	○模様紙を作る方法を考え、試しながら活動する。 表現材料体験	・ いろいろな方法を何度でも試すようにさせ、模様の良さや面白さを感じさせました。  【吹く息の強弱でできる模様を楽しむ】	関 模様作りのいろいろな技法に興味をもって取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】 指導の実際へ こちらをクリック
	2	○これまでの経験を生かし、新たな方法や材料の使い方を組合せながら、いろいろな模様の紙をつくる。 【検証1】 表現材料体験	・ 材料や模様、色を組合せることで新しい形が生まれることに気付かせました。 分析的な見方・考え方  【模様や色の組合せで、オリジナル模様紙にする】	想 お気に入りの表現を生み出すために、材料や技法の使い方を思い付いている。 【観察・作品】 指導の実際へ こちらをクリック

「思い」を明確にする	3	○自分や友達の作った模様紙の模様の特徴（模様・色・イメージ）に目を付けて、4つの仲間に分ける。 【検証2】 作品の相互鑑賞  【模様の特徴による仲間分け】 ○お気に入りの模様紙から、どんな世界が作れるのか考える。	◆友達の見方・感じ方を楽しんで聞き、共感的な姿勢で受け入れながら、自分なりの感じ方を言葉にして伝えることにより、模様や色、それから受ける気付きを生むように働き掛けました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方  【はじけるちくちくの仲間】 ・「窓を開けたら、そこには不思議な世界が広がって…！」と想定し、お気に入りの模様紙の仲間を基に、「不思議な〇〇」づくりに向けた「思い」をもたせました。	鑑 友達と紙を仲間分けしながら、表現の面白さを感じ取っている。 【観察・ワークシート】 指導の実際へ こちらをクリック
「思い」を実現する	4 5	○「不思議な〇〇」のイメージを広げ、模様紙の模様を生かすために試しながら、コラージュで表す。 ・どの部分を生かすか ・どう組み合わせるか ・どう並べたり、重ねたりしたら良いか 背中に静電気をもっている魚をつくりました。シュッとした線のもようを使って、電気が走っているようにしました。	・模様チャートを参考に、模様の生かし方や組合せ方で面白い形が生まれることに気付かせるようにしました。 分析的な見方・考え方 ◆友達の模様の生かし方・組合せ方を共感的な姿勢で受け入れさせながら、形や色、その感じを言葉にして、交流を楽しませました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方  【模様を表すイメージにつなげる】	創 模様から受ける感じを生かして表し方を工夫している。 【観察・作品】 創 イメージに近づくように、組合せ方、並べ方、重ね方を工夫して表している。 【観察・作品】

「思い」を実現する	6	○学校のどこに存在する世界なのか話し合 わせながら、ビニル 傘に作品同士を組み 合わせてつくる。 【検証2】 共同製作 この花の下に、草を置こう。 傘の周りにぐるっと貼って 不思議な生物の世界にしよう。	◆模様・色チャートを参考に自分 の作品の紹介をし、見立ての面 白さを共有させました。 ◆どんなタイトルがぴったり合 うかを考え、「思い」を言葉に 表現させました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方  【話し合い、表したい世界へ近付ける】	想 不思議な世界のイ メージに合わせる ために、作品同士の 組合せを考えてい る。 【観察・作品】 指導の実際へ こちらをクリック
「思い」を味わう	7	○完成した作品を基 に、自分の作品の気 に入ったところや友 人の作品の良いと思 うところを伝え合う。	◆形の面白さや発想の良さを発 見できるように促しました。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方  【作品の良さを付箋に書いて伝える】	鑑 自分や友達の作品 から、良さや面白さ を感じ取っている。 【観察・ワークシート】

③ 指導の実際

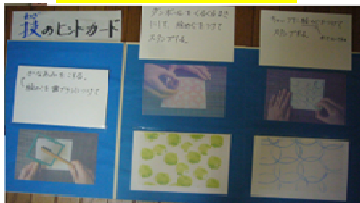
(ア) 体験活動を通して形や色の特徴に気付かせ、「思い」を明確にする工夫

「材料や用具を操作する」という五感を働かせる表現材料体験を学習過程に導入する（1・2／7時）ことにより、偶発的にできる模様から不思議さを思い描けるようにしました。絵の具を使ったいろいろな技法で紙に模様を付ける活動を設定し、材料や用具に進んで関わることができるようにしました。表現技法を掲示物で提案したり、キーワードを与えたりして、児童が主体的に活動しながら、模様や色からイメージが刺激されるようにしました。

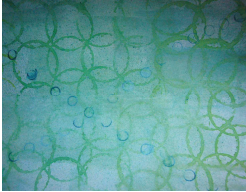
また、模様の形や色からイメージを具現化し、表したい「不思議な〇〇」への「思い」を明確にできるようにつくった模様紙を用いた作品の相互鑑賞（3／7時）を取り入れました。

授業の流れは、次の通りです。

(1 / 7 時)

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の反応 (C) 形の気付き、色の気付き、感じ	支援(★)と評価(◇)
つかむ	1. 模様がどのようにできているか考える。  【参考作品】	(赤絵の具と段ボールを、変身ボックスに入れ、模様紙を出す。) T: この模様紙は、どのようにできているのでしょうか。 C: 段ボールを丸めて、スタンプのように使っていると思います。	★変身ボックスを使い、わくわく感を演出しました。  【変身ボックスと材料】
絵の具と材料を使って「ふしぎなまよう」の紙を4まいつくろう！			
あらわす	2. 絵の具と材料を工夫して、模様紙をつくる。 〈活動を広げるキーワード〉 こする・吹く・ころがす・ぺったん・たらす 〈技のヒントカード〉  【つくりたい模様紙をめくると技法の説明が見られる】	T: 違う材料を使って、4枚の模様紙をつくりましょう。  【材料・道具コーナー】 T: 活動を広げるキーワード、技のヒントカードを参考に、工夫してつくりましょう。  【友達の活動も参考に模様作りを行う】	★条件を与えることで、様々な材料で違う模様をつくらせるようにしました。 ★材料や道具、技法のヒントとなるキーワードにより、活動が広がるようにしました。 ★友達の活動を見ることで様々な模様や技法に興味をもたせ、進んで試しながら活動できるようにしました。
交流する	3. 模様紙を見せ合い、模様や色の良さを伝え合う。 〈見る聞くタイム〉で 交流する観点 もようや色の様子 ○○な形の様子がいいね。 △△になっている色がいいね。	T: 〈見る聞くタイム〉で、模様や色について、自分の工夫を話しましょう。友達の良さを見つけましょう。 C: 赤色の長いとげとげがおもしろい。 C: ストローで強く、弱く吹いたよ。 C: 丸を重ねてスタンプしたよ。 C: 丸と丸がくっ付いたり、離れたりして、動いている感じがするね。	◇絵の具を使った技法に興味をもちながら、表すことを楽しもうとしている。 【関】(観察・作品) ◇模様や色の様子を感じながら、表し方を考えたり、試したりしている。 【想】(観察・作品)
振り返る	4. ワークシートに本時の感想を書き、学習を振り返る。	T: 模様づくりで工夫したところや、模様や色について気付いたことを書きましょう。	

(2 / 7 時)

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の反応 (C) 形の気付き、色の気付き、感じ	支援 (★) と評価 (◇)
つかむ	1. 友達の模様紙を見て、 どのような工夫をしているのか考える。  【混色のスタンピング】	T: 友達は、模様や色をどのように工夫しているでしょう。 分析的な見方・考え方 C: ビー玉コロコロにスパッタリングをして、 2つの模様を組合せています。(技法) C: 水を多く使って、薄い色にしているの、 透き通って見えます。(濃淡) C: 違う色を重ねて、カラフルです。(混色) C: ストローを早くゆっくり吹いて、太さを変えていきます。(太い・細い)	★友達の作品を電子 黒板で拡大して見 せました。  【薄い色のスタンピング】
自分だけの「スペシャルもよう紙」にパワーアップさせよう！			
あ ら わ す	2. 絵の具と材料を工夫し て、模様紙をつくる。 〈使いたい技〉 ・重ねる ・組合せる ・2色以上で ・こい うすい ・太い 細い ・似た色 違う色 ・長い 短い	T: 友達の作品で見つけた技も参考に、自分 だけのスペシャル模様紙にしましょう。 	
交 流 す る	3. 模様紙の模様や色の良 さを伝え合う。 〈見る聞くタイム〉で 交流する観点 もようや色の様子 ○○な形の様子がいいね。 △△になっている色がいいね。 感じ □□な感じがするよ。	T: 〈見る聞くタイム〉で、模様や色の工夫 を話しましょう。友達の模様の良さを見 つけましょう。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方 C: 丸が重なってきれいに並んでいていいね。 C: ぐるぐる模様が蛇の動いた後みたい。 C: 赤と緑と青の組み合わせが相性よく迫力ばつぐん。  	★見つけた工夫を〈使いたい技〉として掲示し、活動の参考にさせるようにしました。 ◇模様の色や形に興味をもって表そうとしている。 【関】(観察・作品) ◇絵の具で表される模様の色や形を組合せて、表し方を工夫している。 【想】(観察・作品)
振 り 返 る	4. 活動を振り返る。	T: 模様づくりで工夫したところ、模様や色 について気付いたことを書きましょう。	

(3/7時)

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の反応 (C) <u>形の気づき</u> 、 <u>色の気づき</u> 、 <u>感じ</u>	支援(★)と評価(◇)
つかむ	1. 模様紙の仲間分けをする時、どこに着目して分けるか考える。	T:これらの模様紙を仲間分けしましょう。どのように仲間分けをしますか。 C:模様の形の似ているもので分けます。 C:模様紙の感じをを考えて分けます。	★友達の模様紙を提示し、黒板で仲間分けさせながら、分ける観点に着目させました。
「つくったもよう」を仲間分けしよう！			
話し合う	2. 自分たちの模様紙を仲間分けする。 ・ <u>模様 (形)</u> ・ <u>色</u> ・ <u>感じ</u>  【模様に着目して仲間分けする】	T:自分達のグループで同じイメージだと思う模様紙同士、仲間にししょう。 C: <u>シュッと</u> とした <u>線</u> で、 <u>スピード</u> の仲間。 C: <u>強い色</u> の <u>集まり</u> 。 <u>カラフル</u> 元気な仲間。 C: <u>優しい色</u> で <u>かわいい形</u> 。 <u>ほんわか</u> かわいい仲間。  【シュッととスピードの仲間】  【カラフル元気な仲間】  【ほんわかかわいい仲間】	★4つの仲間に分けるという条件を与え、制限を加えることでグループでの思考を促すようにしました。 ★どんな特徴 (色・形・イメージ)に目をつけて仲間に分けたのか、仲間の名前を付けさせ、模様の様子を自分達なりの言葉で表現させました。
交流する	3. 分けた模様紙の仲間を見せ合い、色や模様の良さとそれから受ける感じを伝え合う。	T:自分のお気に入りの模様紙の仲間を、他グループの友達に紹介しましょう。 C:この仲間は、 <u>優しい色</u> で、 <u>丸やハート型</u> の <u>かわいい形</u> なので、 <u>ほんわか</u> かわいい仲間と名前を付けました。 C: <u>丸やハートが集まって</u> 、 <u>かわいい感じ</u> 。 C: <u>白やピンク、水色が</u> 、 <u>優しい感じで夢の中みたい</u> 。	※出てきた造形的な特徴を表す言葉をまとめて、模様・色チャートを作成しました。
振り返る	4. 集めた模様紙を見ながら、どんなものができそうか考える。	T:仲間分けした模様紙から、どんな不思議なものがつくれるでしょう。 C:スピードの仲間で不思議な魚をつくる。 C:カラフル元気な仲間で不思議な蝶がでそう。	◇模様の面白さに関心をもち、楽しみながら仲間分けに取り組もうとしている。 【関】(観察・作品) ◇形や色の特徴をそこから受けるイメージと結び付けて感じ取っている。 【鑑】(観察・作品)

(イ) 共同製作によりイメージを追求し、自分の「思い」を表し方につなげる工夫

児童の表現素材体験や友達とかかわる中から生まれる造形的な特徴への気付き・イメージを基に、さらに自分の表したい「思い」が表現につながるように、共同製作を取り入れました。ビニル傘を不思議な世界に見立て、個々の作品をより良く生かし集合させる場、互いのイメージを話し合い確認する場を設定しました。「考える→つくる→話し合う→つくる」活動により、造形的な視点で捉える見方・考え方が働くようにしました。授業の流れは、次の通りです。

(6/7時)

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の反応 (C) 色の気付き、形の気付き、感じ	支援(★)と評価(◇)
つかむ	1. 前時の学習を想起する。 	T:自分たちの不思議なものが集まる世界つくっていました。どんな世界をつくっているのか紹介してください。 C:ぼくたちのグループは、不思議な鳥や蝶が遊ぶ“春夏秋冬の世界”をつくっています。	★発表する時や話し合いには、模様・色チャートを使って伝え合えるように黒板に掲示しておきました。
「ふしぎな〇〇」をあつめて、「〇〇の世界」をつくろう！			
考える	2. グループの世界の中にもっと作れそうなものを考える。 【作戦タイム1】 ①かさのどこにかざったらよいか相談し、作品をかりどめしておこう。 ②考える世界は、学校のどこにありますか。 ③「いたら、あったらいいな」を相談しよう。	T:グループの考える世界に近付けるために、今つくっているものの他に必要なものは何でしょうか。【作戦タイム】で相談しましょう。 C1:素速く跳ぶ鳥をつくりたい。 C2:いいね。スピードの仲間の模様紙が使えるそう。 C3:木や花もあったらいいね。 C4:学校の桜の木にある世界にしよう。 	★作戦タイムの手順を示し、前時に作った作品を貼り合わせてから、自分たちの世界に必要なものを話し合わせました。 ★「〇〇な世界」が学校のどこにある想像させることで、さらにその世界のイメージを広げるようにしました。
製作する	3. 自分のイメージした「不思議な〇〇」をコラージュで表す。 ①製作する。 〈製作の約束〉 1. グループのみんなで、かさの全体を作る。 2. 作品は、友達に相談してから貼る。	T:つくり始めましょう。今日の〈使いたいわざ〉を参考にして、模様や色も生かしながらかつていきましょう。 〈使いたいわざ〉 ・組合せ ・重なり ・大小 ・位置 模様紙を重ねて、優しい感じにしよう。 	★友達の子作品の工夫の良さを、〈使いたい技〉として提示し、製作で生かせるようにしました。 ★製作の約束を知らせグループで話し合いながらかつていくことを伝えました。

交 流 す る	②グループで作品を見せ合い、交流する。 【作戦タイム2】 ①友達の作品を見て、良さを見つけよう。 ②良さを生かすには、かさのどこに貼ったら良いか相談しよう。 ③自分の作品をもっと改善できないかな。 4. 「作戦タイム2」で得たアイデアや工夫を基に作品を仕上げる。  【内側から作品をぶら下げる】	T:出来上がった作品をグループで見せ合いましょう。友達のつくったもののかさのどこにどう貼ったら、自分たちの世界を表せるか話し合いましょう。みんなで集めた「模様・色チャート」を使って話せるといいですね。 分析的な見方・考え方 総合的な見方・考え方 C1:<u>シュッと</u>した<u>スピード</u>の模様紙を使っているから、<u>早く飛んでいる</u>みたい。 C2:飛んでるようにするには 傘の中にぶら下げよう。 C3:<u>模様が重なって</u>、<u>花火</u>のような木。 C4:一番上に木を立てよう。 傘の上に貼ろう。  【児童の作品】 T:「作戦タイム2」で話し合ったことを基に自分たちの〇〇な世界を仕上げていきましょう。  【つくった作品を相談して傘に付ける】	★作戦タイム2の手順を示し、友達の作品の良さを鑑賞し合ってから傘のどこにどのように貼るのか話し合わせました。 ★イメージの共有がしやすいうように、模様・色チャートの言葉を使って話し合わせるようにしました。 ◇友達との話し合いを基に「〇〇の世界」に合わせて、表したいことを思い付いたり、形や色を考えたりしている。 【想】（観察・作品） ◇グループの考える世界に合わせて、形や色の特徴を生かしたり、組み合わせたりして表している。 【創】（観察・作品）
----------------------------	--	---	---

④ 考察

(ア)【検証 1】体験活動を通して形や色の特徴に気付き、「思い」を明確にすることができたか。

具体的に見取るために、児童のワークシートの記述を基に、造形要素のどこに着目して見たり、感じたりして気付いているのかを分析しました。【造形的な視点で捉える見方・考え方を広げる観点】を基に、①模様（形）への気付き、②色への気付き、③形や色から受ける感じの3点で、児童のワークシートの記述を資料1のように分類することになりました。

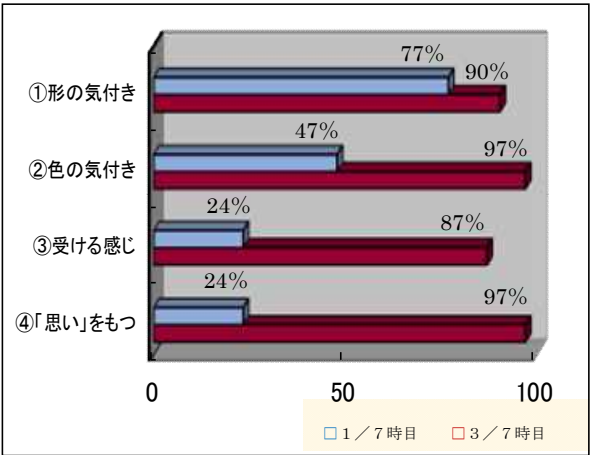
分析的な見方・考え方	見方を広げる	①形	・ビー玉を<u>ゆっくり速く</u>転がした線がおもしろい（太細）。 ・歯ブラシを横にこすったら<u>シュッと</u>した線ができた（直線）。 ・ストローで<u>強く弱く</u>吹いて<u>長さ</u>を調節した（長短）。 ・段ボールを<u>丸く</u>してスタンプिंगできた（曲線）。 ・スパッタリングの強弱で、<u>点が多く少なく集まって</u>きれい（点）。 ・指とキャップのスタンプINGで<u>二重の丸</u>ができた（大小）。
		②色	・<u>台紙と模様が似た色</u>で一体感がある（類似色）。 ・<u>緑と黄色とピンク色</u>がとても合っていて鮮やか（色相）。 ・<u>指で濃く、綿で薄く</u>してスタンプしたら、おもしろい（彩度）。 ・<u>赤と青</u>で迫力を出した（反対色）。
総合的な見方・考え方	感じ方を広げる	③受け	・全体が<u>薄い色</u>で<u>雲のよう</u>（見立て）。 ・<u>カラフルな丸型</u>がいっぱいで<u>ドロップみたい</u>。 ・<u>線がくるくる</u>して<u>蜘蛛の糸みたい</u>。 ・<u>青と黄色</u>で<u>天の川と星のよう</u>。 ・<u>緑と黄緑</u>が<u>交わって自然の森の様子</u>に見える（印象）。 ・<u>小さい雨粒</u>が降ったよう。

資料1 児童のワークシートの記述から見取る造形的な視点で捉える見方・考え方の内容例

資料1は、1／7時と3／7時の終了後の児童の振り返りカードの記述から見取った造形的な特徴の気付きです。

1／7時目の体験活動では、形（模様）に着目して記述している児童が23名で、全体の約77%でした。色に着目している児童は14名（約47%）、形や色から受ける感じを記述している児童は7名（約24%）でした。記述の内容については、表現の技法と一緒に記述されているものがほとんどでした（資料1①）。これは、絵の具や身近材料を使いながら、偶発的にできる模様の形により強く関心をもって見ていたということが考えられます。

そこで、色の気付きや受ける感じにも着目させるため、2／7時目では＜使いたい技＞をキー



資料2 造形的な特徴の気付き

ワードとして掲示し、3／7時目では、つくった模様紙の鑑賞活動（模様紙の仲間分け）をグループで行いました。その結果、形について記述している児童は27名（約90%）、色について記述している児童は29名（約97%）、受ける感じに記述している児童は26名（約87%）となりました。4つの仲間に分類するという課題を設定したことで、児童は、自然に模様や色、そこから受ける感じに着目しながら、分析的な見方や総合的な見方を働かせていたと考えます。

表したい「思い」をもつことに関しては、3／7時目を終わった時点で、「不思議な鳥の世界に住むおしゃれな鳥をつくりたい」などのように、29名（約97%）の児童が記述できていました。

表1は、3／7時目終了後、振り返りカードで、イメージ形成の契機となった手立てについて聞いた結果です。特に、体験活動において児童のイメージの形成の契機となったと考えられる手立ては、表1のように「技のヒントカードやキーワードの提示」「材料・用具の選択性」「友達との活動・交流」「試しながらの活動の場」でした。これらの手立ては、児童の活動を広げることに繋がったこと、また、その活動の広がりや造形的な特徴を自分なりに分析したり、それを組み合わせて総合的に感じ取ったりするための手立てとして有効だったと考えます。

表 1 イメージ形成の契機となった手立て

体験活動においてイメージの契機となった手立て (全30名複数回答可)	
技のヒントカード・キーワードを見る	22名
材料・用具を選ぶ	23名
友達の活動を見る・アドバイスをもらう	24名
材料や絵の具で試しながらつくる	18名

このことから、五感を働かせた主体的な体験活動は、形や色への気付きを生み、それらの造形的な特徴を基にイメージが形成され、表したい「思い」へと導くことにつながると考えられます。

(イ)【検証2】模様や色の気付きを基にイメージを広げ、表したい「思い」につなげることができたか。

「思い」を大切に学習過程を通して、児童がどのようにイメージを広げ、表す「思い」につなげていくのかを分析しました。学習過程の進み方と照らし合わせ、児童の様子や作品、ワークシートの記述、活動中のつぶやきから、抽出児Aによる分析を行いました。

学習過程	活動	活動の様子・作品	活動の振り返り (ワークシートの記述とつぶやき) 色の気付き、形の気付き、感じ	作品や活動からの分析
「思い」を膨らませる	体験活動 1／7時 2／7時	 【刷毛の模様の上にスタンプングをする】	・一番のお気に入りの <u>3色</u> を使っ て <u>きれいな模様紙</u> にした。 (製作途中) ・ローラーを使って、 <u>青に黄色の</u> <u>模様を少し中心に置いてみた</u> <u>ら、青は川、黄色が星の光のよ</u> <u>うに見えた。</u> (振り返り)	1・2／7時では、絵の具の水加減、身辺材料での着彩やスタンプングを試しながら模様や色の組み合わせの面白さに気付いていました。 3／7時では、友達と仲間分けによる鑑賞活動を通して、感じ方との相違に気付いていました。

「思い」を明確にする	相互鑑賞活動 3/7時	 【模様（形）と色の特徴に着目して仲間に分ける】	・〇〇さんは、<u>青の仲間が集まっていて、すずしく透き通る感じ</u>と言っていた。（交流） ・<u>カラフルかわいい感じ、バシヤーンはじける感じ、スピードの感じの仲間に分けました。</u>（振り返り）	友達の気付きを受け止め、共有しながら、模様や色の見方・考え方を広げていました。
「思い」を実現する	個人製作 4/7時	 【不思議イカ】	・色が重ねって、<u>光の海みたい。模様に迫力はなかった</u>ので、<u>くねくねのイカにした</u>ら、<u>不思議になる</u>と思った。（製作途中） ・足を1本ずつ違う模様にした。 ・<u>揺れているような模様の使い方</u>が上手だとほめられてうれしかった。（振り返り）	黄色と青を基調にした模様紙を2枚選び、色の重なり、混ざり合いから、柔らかさ、輝きを感じている。その感じ方を、イカの体や足などの模様や色に生かして、製作しています。
	共同製作 5/7時	 【友達の作品を集めて不思議な海の世界に決める】  【おしゃべリアンコウ】	・友達が面白い模様のひらめやかめをつくっていたので、“<u>不思議な海の世界</u>”にした。（交流） ・元気な提灯アンコウがいたらいいと思った。（製作途中） ・カラフルな仲間の模様紙を使った。体は<u>水色の波模様</u>、光る丸い所をハートの模様を使った。 ・顔に<u>金の砂がかかったような模様</u>がいい、模様を重ねた部分がいいと言われてうれしい。（振り返り）	グループで決めた世界からイメージを広げ、おしゃべりする提灯アンコウを製作しました。 カラフルな仲間の模様紙を選び、青を基調に同系色と反対色の赤で元気な感じを表している。スタンプ模様も生かし、うろこを表している。 友達との話合いを通して、表したい「思い」につなげています。
	共同製作 6/7時	 【出来上がりの作品】 ～不思議な海の中にある不思議な学校～	・大プールの見えるプールサイドのくぼみにある世界にしたい。（交流） ・不思議な海の学校に、イカやヒラメたちが通っている。<u>夢のようなふんわり感</u>を出した。（振り返り） ・揺れる海藻やわかめを魚の周りに付けた。（振り返り） ・提灯アンコウが、<u>カメとおしゃべりしているように</u>つくった所がおすすめ。（振り返り）	自分たちの表したい世界が学校のどの場所にあるのか話合い、さらにイメージを膨らませました。 個々の製作した作品同士のつながりや周りの植物に想像を広げ、物語性をもって製作しました。

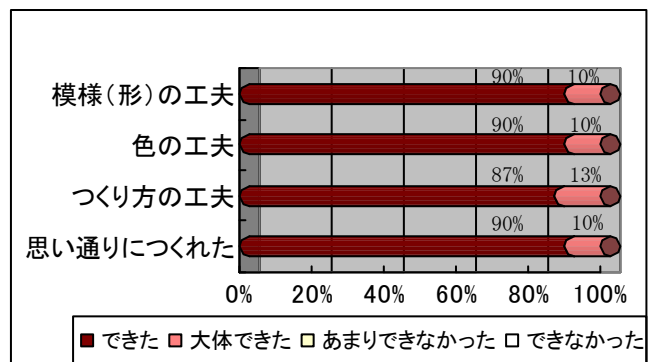
A児は、作品の完成まで、イメージを広げ、表現とつなげながら、造形活動を行っていたことが分かります。特に、共同製作では、グループの表したい世界をつくりだすために、自分の表したいものを明確に決め、どのような模様や色の模様紙を使ったら良いのか、具体的に思考しながらつくっていたことが分かります。その活動過程においては、表現材料体験や作品の相互鑑賞を通して獲得した模様や色への気づきを活用しながら思考していました。

また、グループで1つの世界をつくり上げるために、互いの作品のよさや面白さを生かす方法を考えながら、自然発生的な対話や協力的な作業の姿も見られました。共同製作における話合いの気づきや作品同士の組合せから思い付いた新たな発想が、製作活動を広げ、発想・構想の能力を刺激したと言えます。

これらのことより、A児は、自分なりにイメージを広げ、模様や色に着目した造形的な見方・考え方を働かせながら、表したい「思い」につなげていくことができたと考えます。

資料3は、6／7時における、題材を通した自己評価の回答をまとめたものです（4年1組30名）。

どの項目も約90%の児童が、自分なりに模様や色、作り方の工夫が「できた」と回答しています。自分なりの「思い」を、形や色を基に表現につなげて作品を完成させることができ、自分の造形活動に満足感や達成感を感じていることがうかがえます。



資料3 6／7時における自己評価

検証1・2を通して、児童たちは、形や色への気づきを基にイメージを明確にしたり、広げたりして、表したい「思い」につなげて造形活動を行っていることがわかりました。形や色に着目した造形的な見方・考え方は、児童の発想・構想する能力を支え、表したい「思い」を膨らましなが表現へと導いていると考えます。